

Oracle® VM

Manager リリース・ノート

リリース 2.1.2

B51694-02

2009 年 1 月

このドキュメントには、Oracle VM Manager リリース 2.1.2 の情報が含まれ、製品ドキュメントよりも優先されます。このドキュメントには、Oracle VM Manager ドキュメントに含まれていない最新情報が記載されています。このドキュメントは、Oracle VM Manager をインストールする前にお読みください。このドキュメントはリリース後に更新される場合があります。このドキュメントの更新版を確認したり、その他の Oracle ドキュメントを参照するには、Oracle Technology Network Japan (OTN-J) Web サイトのドキュメントのセクションを参照してください。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

このドキュメントは、Oracle VM Manager のユーザーおよび管理者を対象としています。ここでは、製品の概要と Oracle VM Manager の使用中に発生する可能性のある問題およびその回避策について説明します。

Oracle VM Manager をインストールして使用する前に、このドキュメントを読むことをお勧めします。

このドキュメントの内容は、次のとおりです。

- [Oracle VM Manager の概要](#)
- [既知の制限とその回避策](#)
- [リリース 2.1.2 へのアップグレード](#)
- [ドキュメントの正誤表](#)
- [ドキュメントのアクセシビリティについて](#)
- [サポートおよびサービス](#)

1 Oracle VM Manager の概要

Oracle VM Manager は、Oracle VM Server を管理するためのサーバー・ベースのユーザー・インタフェースであり、標準 Application Development Framework (ADF) Web アプリケーションです。Oracle VM Manager は、インストール・メディアやテンプレートを使用した仮想マシンの作成など、仮想マシンのライフ・サイクル管理を行います。仮想マシンの電源オン、電源オフ、削除、アップロード、配置、ライブ移行などの機能を提供します。また、Oracle VM Manager を使用することで、ISO ファイル、仮想マシン・テンプレートおよび共有仮想ディスクを含むリソースを効率的に管理できます。

2 既知の制限とその回避策

ここでは、このバージョンの Oracle VM Manager における既知の制限事項、および問題の解決に役立つ推奨回避策について説明します。この項の内容は、次のとおりです。

- ユーザー・インタフェース言語
- Oracle VM Manager RPM アップグレード時の仮想マシン・テンプレートまたは仮想マシン・イメージのインポートの失敗
- 新しいブラウザにアカウント・データが渡される
- サーバー登録の重複エラー
- 表示されない新規のサーバー・プール
- サーバー・プール内のサーバーには同じ CPU ファミリの CPU が必要
- 新機能をサポートするための Oracle VM Server のアップグレード
- サーバー・プール・マスターのステータスが **Active** になる前にタスクを実行できない
- サーバー・プール間ではサポートされないロード・バランシング
- Oracle VM Server イメージから仮想マシンを作成できない
- ハードウェア仮想化ゲストのハードウェア要件
- 構成ファイル名が **vm.cfg** でない場合の仮想マシン・イメージのインポートの失敗
- サイズが 4GB 以上の場合のリソースのインポートの失敗
- Oracle VM Manager の再インストール後におけるログイン失敗
- 仮想マシン・コンソールへのアクセス
- 仮想マシンにおけるハード・ディスクの制限
- 仮想マシンにおけるネットワーク・カードの制限
- PXE を介して起動する場合に必要な仮想ネットワーク・インタフェース (VIF)
- PXE を介してハードウェア仮想化マシンを起動する場合に必要な完全仮想化 (ioemu) タイプ
- メモリーの削減をサポートするために必要な再起動
- ライブ移行は同じサーバー・プール内でのみ実行
- ブート・デバイスとしての仮想 SCSI ディスクはサポートされない
- Oracle VM Manager が実行されているサーバー・プールを削除できない

2.1 ユーザー・インタフェース言語

Oracle VM Manager での現行のリリースでサポートされる言語は、英語のみです。

2.2 Oracle VM Manager RPM アップグレード時の仮想マシン・テンプレートまたは仮想マシン・イメージのインポートの失敗

Oracle VM Manager RPM アップグレード時の仮想マシン・テンプレートまたは仮想マシン・イメージのインポートが失敗し、インポートを取り消すことができない場合があります。アップグレード時に OC4J インスタンスが停止され、インポートの再開またはその他の類似のプロセスが正常に実行されません。

回避策: Oracle VM Manager RPM をアップグレードする前に、すべてのインポートまたは類似の操作が完了していることを確認します。

2.3 新しいブラウザにアカウント・データが渡される

Mozilla Firefox を使用している場合、任意の Oracle VM Manager ページの URL を新しいブラウザに貼り付けることができ、ログインしなくてもそのページを直接開くことができます。この場合、アカウント・データが新しいブラウザに渡されます。これにより、セキュリティ上の問題が発生します。

回避策: そのアカウント・データを消去するには、「ツール」メニューから「プライバシー情報の消去」を選択します。これで、URL を新しいブラウザに貼り付けたときに、ログインするためのユーザー名とパスワードの入力を要求されます。

Mozilla Firefox を終了したときにどのプライベート・データを消去するかを構成できます。

プライベート・データ・オプションを選択するには、「ツール」メニューから「オプション ...」を選択し、次に「プライバシー」をクリックします。次のいずれか、または両方を選択します。

- Mozilla Firefox を終了するたびにプライベート・データを消去するには、「Firefox の終了時にプライバシー情報を消去する」を選択します。
消去するプライベート・データをカスタマイズするには、「設定 ...」を選択します。「プライバシー情報の消去」ダイアログ・ボックスで、消去するデータを選択します。
- Mozilla Firefox を終了したときに消去するプライベート・データを選択するには、「プライバシー情報を消去する前に確認する」を選択します。

2.4 サーバー登録の重複エラー

Oracle VM Manager では、Oracle VM Server は 2 回以上登録できません。登録の重複によって、エラーが発生し Oracle VM Server の管理が不安定になる場合があります。

2.5 表示されない新規のサーバー・プール

サーバー・プールが正常に作成されても、キャッシュの更新が遅れることで、キャッシュにその時点のデータが取得されず、そのため新しく作成されたサーバー・プールが表示されない場合があります。このことは、その他の新しいサーバー、グループ、ユーザーなどにも適用されます。

回避策: Oracle VM Manager をログアウトしてから、再度ログインします。これで、新しいサーバー・プールが表示されるようになります。

2.6 サーバー・プール内のサーバーには同じ CPU ファミリの CPU が必要

サーバー・プール内のサーバーには同じ CPU ファミリの CPU が必要です。同じ CPU ファミリの CPU でない場合、ライブ移行などの一部の操作が失敗する可能性があります。CPU は、同じ CPU ファミリーである必要がありますが、異なる構成（コア数、メモリー量など）にすることができます。サーバー・プール内のサーバーは同じにすることをお勧めします。

2.7 新機能をサポートするための Oracle VM Server のアップグレード

リリース 2.1.2 の新機能を使用するために、仮想マシン・サーバー、ユーティリティ・サーバー、サーバー・プール・マスターで実行中の Oracle VM Server ソフトウェアをリリース 2.1.2 にアップグレードすることをお勧めします。

2.8 サーバー・プール・マスターのステータスが Active になる前にタスクを実行できない

Oracle VM Agent を再起動した後、サーバー・プール・マスターのステータスが **Active** になるまではどのタスクも実行できません。

2.9 サーバー・プール間ではサポートされないロード・バランシング

サーバー・プール・マスターが提供するののは、同一のサーバー・プール内での Oracle VM Server 間におけるロード・バランシングのみです。Oracle VM Manager は、サーバー・プール間における、仮想マシンの配置、クローニング、テンプレートとしての保存などのロード・バランシング操作をサポートしません。たとえば、仮想マシンを別のサーバー・プールへ配置する場合、Oracle VM Manager は、ターゲットのサーバー・プールのデフォルト・パーティションにこの仮想マシンを配置します。そのパーティションで使用可能なストレージが十分でない場合、操作は失敗し、Oracle VM Manager がサーバー・プール内の別のストレージ・パーティションに仮想マシンの配置を試みることはありません。

2.10 Oracle VM Server イメージから仮想マシンを作成できない

仮想マシン・イメージ内に Oracle VM Server イメージを含む仮想マシンを作成することはサポートされていません。Oracle VM Server がインストールされた仮想マシンは作成できません。

2.11 ハードウェア仮想化ゲストのハードウェア要件

ハードウェア仮想化ゲストを作成するには、Oracle VM Server に Intel-VT（コード名 Vanderpool）CPU または AMD-V（コード名 Pacifica）CPU が必要になります。サポートされるハードウェアのリストについては、『Oracle VM Server インストレーション・ガイド』を参照してください。

2.12 構成ファイル名が `vm.cfg` でない場合の仮想マシン・イメージのインポートの失敗

仮想マシンの構成ファイルの名前が `vm.cfg` 以外の場合、イメージのインポート時に構成ファイルが Oracle VM Manager で認識されない可能性があります。仮想マシン・イメージはアップロードされません。

回避策: 仮想マシンの構成ファイル名が `vm.cfg` であることを確認します。

2.13 サイズが 4GB 以上の場合のリソースのインポートの失敗

リモート Web サーバーが Apache 2.1 以下の場合、4GB 以上のリソース（テンプレートや仮想マシン・イメージなど）のインポートは失敗する可能性があります。

解決策: リモート Web サーバーを Apache 2.2 以上にアップグレードしてください。

2.14 Oracle VM Manager の再インストール後におけるログイン失敗

既存の Oracle VM Manager パッケージをホスト・コンピュータから手動で削除し、再インストールを行った後に、Oracle VM Manager にログインしようするとログインに失敗する場合があります。

回避策: Oracle VM Manager パッケージを手動で削除しないでください。Oracle VM Manager をアンインストールするには、Oracle VM Manager のインストール・スクリプト `runInstaller.sh` を実行して、「Uninstall Oracle VM Manager」を選択します。再インストールを実行するには、`runInstaller.sh` スクリプトを再度実行して、「Install Oracle VM Manager」オプションを選択します。

2.15 仮想マシン・コンソールへのアクセス

Oracle VM Manager では、仮想マシン（ゲスト）コンソールへリモート・アクセスするために、VNC ブラウザ・プラグインが必要になります。

- Mozilla Firefox を使用して仮想マシンにアクセスする Linux ユーザーは、Oracle VM Manager を実行する前に、クライアント側で `ovm-console` パッケージをダウンロードしてインストールする必要があります。<http://oss.oracle.com/oraclevm/manager/RPMS> からダウンロードします。

クライアントの CPU アーキテクチャに従って、適切な `ovm-console` パッケージ・タイプを選択してください。

i386 コンピュータの場合は、**`ovm-console-1.0.0-2.i386.rpm`** をダウンロードします。

x86_64 コンピュータの場合は、**`ovm-console-1.0.0-2.x86_64.rpm`** をダウンロードします。

- 非 Linux ユーザーが仮想マシン・コンソールにアクセスできるようにするには、<http://oss.oracle.com/oraclevm/manager/RPMS> から `tightvnc-java-1.2.9-3.noarch.rpm` をダウンロードして、Oracle VM Manager のホスト・コンピュータにインストールします。

2.16 仮想マシンにおけるハード・ディスクの制限

ハードウェア仮想化マシンには、最大 4 つの IDE ディスク（CD-ROM および共有仮想ディスクを含む）および 7 つの SCSI ディスクを含めることができます。

準仮想化マシンでディスクの変更を反映するには、再起動する必要があります。

2.17 仮想マシンにおけるネットワーク・カードの制限

Oracle VM Manager では、それぞれの仮想マシンに対して 8 枚のネットワーク・カードを使用できます。ただし、仮想マシンをインストール・メディアから作成する場合、システム・ライブラリでは 4 枚以上のネットワーク・カードを追加することはできません。

回避策: 仮想マシンを作成してから、Oracle VM Manager で仮想マシンを編集し、最大 5 枚の新しいネットワーク・カードを追加します。

2.18 PXE を介して起動する場合に必要な仮想ネットワーク・インタフェース（VIF）

Preboot Execution Environment（PXE）を介して仮想マシンを起動する場合、有効な仮想ネットワーク・インタフェース（VIF）が少なくとも 1 つは存在することを確認します。

2.19 PXE を介してハードウェア仮想化マシンを起動する場合に必要な完全仮想化 (ioemu) タイプ

PXE を介してハードウェア仮想化マシンを起動する場合、VIF のタイプは完全仮想化 (ioemu) である必要があります。

2.20 メモリーの削減をサポートするために必要な再起動

仮想マシンのメモリーを削減する場合、変更を反映するには仮想マシンを再起動する必要があります。

2.21 ライブ移行は同じサーバー・プール内でのみ実行

Oracle VM Manager では、サーバー・プール間の移行は実行できません。仮想マシンを移行できるのは、同一のサーバー・プール内で、ある仮想マシン・サーバーから別の仮想マシン・サーバーへ移行する場合のみです。また、これら 2 つのサーバーは、同じ CPU アーキテクチャを持つ必要があります。

2.22 ブート・デバイスとしての仮想 SCSI ディスクはサポートされない

ハードウェア仮想化マシンに仮想ディスクを作成する際、IDE ディスクおよび SCSI ディスクの両方を作成するオプションがあります。IDE ディスクはどのような状況でも使用できます。SCSI ディスクは、準仮想化ドライバがインストールされていない、ビュアなハードウェア仮想化マシンの非ブート・デバイスとしてのみ使用します。

2.23 Oracle VM Manager が実行されているサーバー・プールを削除できない

ゲスト仮想マシンとして Oracle VM Manager が実行されている場合、Oracle VM Manager が実行されているサーバー・プールは Oracle VM Manager では削除できません。

解決策: サーバー・プールを手動で削除します。サーバー・プールを手動で削除するには、次の手順を実行します。

1. Oracle VM Manager にログインして「**VM**」タブを選択します。Oracle VM Manager のゲスト仮想マシンが実行されている仮想マシン・サーバーの名前を書き留めます。
2. 仮想マシン・サーバーにログインし、`xm list` コマンドを次のように使用して Oracle VM Manager のゲスト仮想マシンのドメイン識別子を検索します。

```
# xm list
```

次のような出力が表示されます。

Name	ID	Mem	VCPUs	State	Time(s)
1331_manager_guest	6	256	1	-b----	1.6

3. `xm shutdown <guest_id>` コマンドを使用して、仮想マシン・サーバー上の Oracle VM Manager のゲスト仮想マシンを手動で停止（電源オフ）します。たとえば、ドメイン識別子が 6 のゲスト仮想マシンを停止するには、次のように入力します。

```
# xm shutdown 6
```

4. サーバー・プール・マスターにログインして Oracle VM Agent データベース・キャッシュから仮想マシン・サーバー情報を削除します。たとえば、サーバー・プール・マスターで、サーバー・プール内のすべての仮想マシン・サーバーの仮想マシン・サーバー情報をダンプします。

```
# ./opt/ovs-agent/db/db_dump.py srv
```

次のような出力が表示されます。

```
/etc/ovs-agent/db/srv.db
example.com      =>      {'status': 'RUNNING', 'agt_passwd': 'ovmpwd',
'cpu_avail': 9220.80060000000005, 'is_shared': True, 'cpu_idle':
0.9899999999999999, 'cpu_num': 2, 'ip': '102.168.2.1', 'hostname':
'example.com', 'agt_url':
'https://oracle:ovmpwd@example.com:8899', 'agt_addr':
'example.com', 'agt_username': 'oracle', 'mem_free': 1421, 'vcaps':
'xen-3.0-x86_64 xen-3.0-x86_32p hvm-3.0-x86_32 hvm-3.0-x86_32p hvm-3.0-x86_64',
'mem_total': 2005, 'cpu_speed': 4656.97000000000003, 'agt_port': 8899, 'arch':
'64bit', 'srv_role': 'site ,utility ,xen ', 'agent_version': (2, 2, 0, 59)}
```

5. db_del.py <server_name> スクリプトを次のように使用して、サーバー・プール・マスターからサーバー・プール内の仮想マシン・サーバーを削除します。

```
# ./opt/ovs-agent/db/db_del.py srv example.com
```

次のような出力が表示されます。

```
these records will be removed:
0) example.com
which one to remove? ('Y' to remove all)Y
removed 0) example.com
```

Oracle VM Manager のゲスト仮想マシンおよびこのゲスト仮想マシンが実行されていた仮想マシン・サーバーが削除されます。サーバー・プール内のすべての仮想マシン・サーバーも削除されます。また、Oracle VM Manager のゲスト仮想マシンが存在していない場合は、このゲスト仮想マシンが実行されていたサーバー・プールも削除されます。

3 リリース 2.1.2 へのアップグレード

リリース 2.1 またはリリース 2.1.1 からリリース 2.1.2 へのアップグレードについては、『Oracle VM Manager インストール・ガイド』を参照してください。

4 ドキュメントの正誤表

この項では、Oracle VM Manager ドキュメントに含まれていない最新の機能について説明します。

4.1 既存の Oracle Database の表領域を指定するオプションが含まれるインストール・スクリプト

Oracle VM Manager のインストール・スクリプトには、既存の Oracle Database をインストールして使用する際に必要な表領域を選択するオプションが含まれています。このことは、『Oracle VM Manager インストール・ガイド』には記載されていません。次に、外部データベースを使用して表領域を指定するインストール・スクリプトの例を示します。

```
Welcome to Oracle VM Manager 2.1.2
```

```
Please enter the choice: [1|2|3]
```

1. Install Oracle VM Manager
2. Uninstall Oracle VM Manager

```

3. Upgrade Oracle VM Manager
1

Starting Oracle VM Manager 2.1.2 installation ...

Do you want to install a new database or use an existing one? [1|2]
1. Install a new Oracle XE database on localhost
2. Use an existing Oracle database in my network

2
Please enter the database hostname or ip address(Default: ovmmgr.home):example.com
Specify a port that will be used for the database listener [1521]:1521
Please specify the database SID(Default: orcl):mySID

Please enter the password for database account 'SYS': mypassword

Provisioning Oracle instant client ...

Checking the availability of the database ...

Set default database schema to 'OVS'.
Please enter the password for account 'OVS': mypassword
Confirm the password:
Please enter the default tablespace for user OVS(DEFAULT: USERS): USERS
Checking the availability of the tablespace USERS ...
Creating the Oracle VM Manager database schema ...
...

```

5 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、**Oracle Accessibility Program** の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話（TTY）アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

6 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

6.1 Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

6.2 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

6.3 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

6.4 その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかえる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。